ひのたにえん

2023年度
秋号

世界一やさしい運動会と合理的配慮

ひのたに園　園長　齋藤誠一

去る10月10日、ひのたに園にて運動会を開催しました。当日は、あいにくの天候で屋内での開催となりましたが、紅白に分かれ熱戦が繰り広げられました。

何度かこのコラムでも紹介していますが、ひのたに園の利用者の状態像は多様です。年齢は20代から80代。ADLの状態も様々な方が暮らしていらっしゃいます。そのようなひのたに園の利用者が一堂に会しての運動会の様子をご紹介します。例えば、パン食い競争では、竿の高さがランナーに合わせて上下に動く。時に手を使ってもOK。玉入れでは、玉を入れるポールの上のかごとは別に低い姿勢でかごを背負った係員が車いす利用者の周りを動く。しかし、車いすでない人もそこに玉を入れるため、ほぼすべての玉がかごに収まり僅差の勝負になります。一方で、綱引きは、人数を厳密にそろえたガチンコ勝負。

そのような光景を見て、運動会の2日前に大阪で参加した合理的配慮に関するシンポジウムで聞いた話を思い出しました。そこでは、「日本人はルールを守るのは得意だけど、ルールメイクが苦手。合理的配慮とはルールメイク。もっというと、イノベーションには、ルールメイクする創造力が必要。イノベーションを起こす人材を育成するためにも合理的配慮の普及は大事。」とのことでした。

まさに、ひのたに園の運動会はルールメイクそのものではないでしょうか。そして、そのルールメイクを発想する源となっているのは、配慮を必要とする対象者なのです。

さて、ひのたに園の運動会では紅組が優勝しました。最後はMVPの発表です。今年のMVPは、「ええもんほしー！」が口癖のAさん。時に大声で「ええもんほしー！」と叫ぶ他の利用者さんから怒られることもあります。そのAさんがMVPの賞状を受取った際、他の利用者さんから　「ええもんもらえたなー。」と大爆笑。その時私は、ひのたに園の運動会は世界一優しいな～。と自画自賛。

そして、「なんだ。合理的配慮って難しくない。優しい心で、どうしたらみんなが楽しいかを考えたらいい。」そんなことを感じた10月の日々でした。

最近のひのたに園

怖さで涼んだ？納涼祭

7月27日に納涼祭を開催しました。準備の段階から利用者の方と一緒に行い、当日も職員と利用者の方々が協力して実施することができました。日中は室内で模擬店とゲーム大会、夜はひのたに園の建物の周りできもだめしを行いました。色々な仕掛けを考え、マネキン人形を手作りし、とても怖いきもだめしとなりました。怖さで涼しくなる予定でしたが、夜間の気温も熱帯夜でとても暑い中での納涼祭の締めくくりとなりました。（杉田）

構えの綺麗さNo1

しっかり役目果たしました

個的は園長と副園長の写真

食べて歩いた秋の文化祭！

Q「藤井聡太の八冠目は？」
一同「わからん…」

お味は？
大変美味しゅうございます

バーテンダー仆

秋晴れの空のもと、今年も文化祭を開催しました。『秋を感じながら楽しい一日を過ごしましょう！』をテーマに、昼食はひのたに製麺のうどんで、おやつにはグラウンドで焼いた絶品やきいもと上品なカフェでティータイムを満喫しました。

園内5ヶ所にポイントを設置した「謎解き＆スタンプラリー」では利用者も職員も真剣にクイズに向き合っていました。夜のカラオケBarではバーテンダーに扮した職員がノンアルコールカクテルでもてなし、賑やかな秋の一日となりました。（小杉）

第45回全国救護施設研究協議大会に参加しました！

10月17日と18日の2日間、山梨県で開催された全国救護施設研究協議大会にひのたに園から4名の職員が参加しました。300名を超える全国の救護施設職員が集まり、救護施設を取り巻く現状や他の施設の取組みについて理解を深めました。

分科会では4グループに分かれ、それぞれのテーマに沿って意見交換を行いました。「地域共生社会に向けた救護施設の取り組み」のグループでは、ひのたに園が行っているみんな食堂「つどえば」の実践を報告しました。今後の課題である「救護施設の見える化の取り組み」がテーマのグループでは、職員や利用者が地域の活動に参加していく機会を検討し合い、救護施設の可視化に対して多くの気付きが得られました。

お互いの施設の取組みや支援を共有し、職員同士の交流を深める機会ともなりました。（北岸）

「交代するときには炭で真っ黒でな。誰かわからんかったわ。」

戸石和雄さん(76)

いつも冗談を言って笑わせてくれる戸石さん。そんな戸石さんに軍艦島での生活の話をお聞きしました。

＞戸石さんは軍艦島で生まれたんですか？
そうやで。軍艦島には小学校と中学校もあってん。おんなじ建物で7階建てや。

＞7階建ての学校は体験したことがないです。卒業してからはどうしたんですか？
炭鉱で働いてたわ。縦穴の大きい穴でな。下まで見えへんねん。下までいったら横に穴があってな。それを電車でいくねん。

＞炭鉱で働いてたんですね。炭鉱で働くのはテレビでしか見たことないので…つるはしで炭をほったり、ダイナマイトを使ったりしたんですか？
そう。つるはしは重かったわ。ダイナマイトも使ってた。三人交代で掘ってな。15時から18時まで担当してたわ。交代するときには炭で真っ黒でな。誰かわからんかったわ。

「これほんまの話やで」と戸石さん

＞本当にあったんですね。危険じゃなかったんですか？
危ないでー。それに炭鉱やで死んだ人もいてな。掘ってるときは頭のライト一つだけやで暗くてなー。なんか近くにいるんじゃないかと思えて気持ち悪くてよ。幽霊にもあったことあるわ。

＞ライト一つだけなんですか。それは気持ち悪いですね。
ほんまに気持ち悪かったでー。こうすぐ横になんかいる感じがしてな。それにライトも故障するときがあってな。もう真っ暗。あれは嫌やったわー。

＞今日聞いたことのほとんどテレビの中の話のように思っていました。話を聞かせて頂きありがとうございます。（聞き手・文　志井）

人生いろいろ

「夏場は地獄や。解体業やってたら最高で11キロ減ったとことあるな。」

山本光男さん(58)

職員が困っているとよく手伝ってくださる山本さん。予想外の今までの仕事の幅の広さに脅かされました。

＞学生時代のことから聞かせてもらってもいいですか？
中学は卓球やって、テニスやって、最後に剣道やってた。卒業したあとは働いてた。
仕事先は先生が探してくれて、作業の下請けの会社に紹介してくれたん。

＞良い先生がいやったんですね。
うん。内容は、洗濯機とかエアコンの加工とかのライン作業。相手は完全に二十歳以上のものばっかり。それで働いて気がついたら、やめるまで16年働いてたな。

＞ちなみに洗濯機以外どんなものがあったんですか。
洗濯するものを入れんと、じゃがいもの皮を剥く専用の洗濯機があったんや。じゃがいも入れてみようかって誰かが言い出して、そうしたら簡単に皮めくれるから、ほなそれで販売しようかって。農家の人間はほしいってなって、本来の企画以上の商品が出てしまった。

＞面白いですね。そこで16年つとめた後の仕事は何しはったんですか。
そのあとは、全く違うから。トラック乗ってた。長距離ばっかり。南の方やと四国鹿児島まで。北だけ行ってへんな。

「仕事はいろいろやってきたで」と山本さん

＞ドライバーやってる時は、いろんなところのご飯とか食べに行ってました？
そうそうそう、他のドライバーが昔ながらの店を教えてくれるんやんな。店の他にも、「ここで検問しとるさかいに、この道はやめといた方がいい」とか教えてくれるからね。仲間になってきたら教えてくれるでな。

＞ドライバー同士のつながりがあるんですね。そのあとは何をされてたんですか？
ほんで、はじめてやったのが、解体業。重機を使うまでの間の仕事を手でバール持ってやるんや。解体業は3年やって、今度鉄筋工2年やって、ほんで最終的にはまた解体の方にもどって。あのーアスベストってわかる？屋根の天井の板外したら出てくるクッション材。人間の体にはいったら害になる、ほんでマスクとかフルマスクでせなあかんねんな。でも夏場は地獄や。解体業やってたら最高で11キロ減ったことあるな。（聞き手・文　北岸）

NO-MAに伊藤勝さんの作品が出展されます！

今年度も「滋賀県施設・学校合同企画展 ing… ～障害のある人の進行形～」が近江八幡市にあるボーダレス・アートミュージアムNO-MAにて開催されます。ひのたに園の伊藤勝さんの作品も展示されます。会期は前期が12月23日（土）～1月28日(日)後期が2月3日(水)～3月3日(日)です。伊藤さんの作品は前期に展示されます。今回は20回目の開催を記念したイベントなども予定しておりますのでお近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。（玉木）

ひのたに園のことを書いた本が出版されました！

タイトルは『よるべない100人のそばに居る。＜救護施設ひのたに園＞とぼく』（河出書房新社）
著者である元職員の御代田さんからもコメントを頂きました。

ひのたに園で出会った方々のことや、支援員として働いた日々をエッセイ風に綴った1冊です。

広報誌の『人生いろいろ』でも毎回ご紹介しているように、ひのたに園には本当に色んな人生を送ってきた方がいます。ひのたに園で働いた3年間は、そんな1人1人の生い立ちや暮らしに触れる中で、僕自身が勇気をもらい、人間として成長させてもらった時間でもありました。

本を書き始めたのは、ひのたに園の魅力や、救護施設の役割、社会的な意義を、福祉に縁遠い人にも、楽しくわかりやすく知ってもらえないか、という想いからでした。本を1冊書き上げるというのは、想像以上の苦労を伴う作業でしたが、ひのたに園で過ごした暖かくも刺激的な日々の思い出に励まされながら、なんとか出版にたどり着きました。

ほっこりするイラストが添えられ、可愛らしい仕上がりになっています。ひのたに園に馴染みのある方であれば、「このエピソード、わかる！」「このイラスト、ひのたに園のあそこだ！」と細部まで楽しんでいただけるかもしれません。ぜひ多くの方に読んでいただけたら嬉しいです。（御代田）

バリアフリー演劇「星の王子さま」を上演します

2024年1月18日(木)、日野町町民会館わたむきホール虹にて、バリアフリー演劇「星の王子さま」を上演します。演じてくださるのは、昨年9月に同会場にて「Touch～孤独から愛へ～」を公演くださいました東京演劇集団風のみなさんです。

この演劇鑑賞会の特徴は、何と言っても舞台手話通訳の存在です。通常の手話通訳者は、演者の脇に立ち通訳を行いますが、舞台手話通訳は、物語の進行に合わせて舞台上を動きながら、時に演者と掛け合いをしながら通訳を行います。必見です！

また、観客にとてもやさしいこともこの演劇鑑賞会の特徴です。ある会場では、ひとりの観客が突然舞台に上がったことに役者が反応し、その後のストーリーを一緒に演じて大変盛り上がったそうです。「（静かな会場なのに）うちの子が声を出したらどうしよう…」という心配もご無用です。声出しOK、自由に、思いのままに鑑賞いただければいいのです！

百聞は一見に如かず。ぜひ、会場にお越しください。（齋藤）

東京演劇集団風の皆さんが
ひのたに園に来られたときの様子

お申し込みフォームはこちらから→

glow
社会福祉法人グロー

救護施設「ひのたに園」広報誌(2023年度秋号)
2023年11月発行
〒529-1601 滋賀県蒲生郡日野町松尾121
TEL 0748-52-0645　FAX 0748-53-2598